

第47回 ぴあフィルムフェスティバル 2025

応募数・史上 2 番目となる 795 作品から選ばれた 22 本！
高校生監督作が 3 本入選！

「PFF アワード 2025」 最終審査員 決定！

門脇 麦／関 友彦／福永壮志

(俳優)

(プロデューサー)

(映画監督)

山内マリコ／山中瑤子

(作家)

(映画監督)

※五十音順／敬称略

平素よりお世話になっております。

「PFF アワード」は、1977 年にスタートした、映画監督を目指す若者たちの自主映画コンペティションです。現在大ヒット公開中の『国宝』の李相日監督、今年の大島渚賞を受賞した『ナミビアの砂漠』の山中瑤子監督、5 月のカンヌ映画祭を沸かせた『ルノワール』の早川千絵監督など、これまでに 190 名を超えるプロの映画監督を輩出してきました。

9 月 6 日(土)より、国立映画アーカイブにて開催となる、「第 47 回ぴあフィルムフェスティバル 2025」のコンペティション部門「PFF アワード 2025」の入選作品が決定。**「PFF アワード 2025」の応募数は、史上 2 番目となる 795 作品**。中学生、高校生らまだ見ぬ若い才能に出会うべく、昨年から実施している 10 代の出品料無料化の効果もあり、10 代の応募作品が前年比約 1.5 倍に増加しました。その中で、17 名のセレクション・メンバーによる、**約 4 か月間の選考を経て、決定した入選作品は 22 本**。**平均年齢は 23.8 歳、高校生監督による作品も 3 本入選**するなど、昨年に続き、若年層の躍進が目立つ結果となりました。

そして、この度、「PFF アワード 2025」の**最終審査員が決定！**

5 名のトップクリエイターで構成されるメンバーは、**門脇 麦氏(俳優)、関 友彦氏(プロデューサー)、福永壮志氏(映画監督)、山内マリコ氏(作家)、山中瑤子氏(映画監督)**となりました。

全 22 本の入選作品は、9 月の PFF 東京会場で 2 回、11 月開催の京都会場で 1 回のスクリーン上映に加え、今年もオンラインでの同時配信を予定。グランプリなど各賞は、9 月 19 日(金)の表彰式にて発表されます。また、若年層の観客とつくり手の出会いの場を創出すべく、「第 47 回ぴあフィルムフェスティバル 2025」にて、**10 代限定の無料招待キャンペーンを実施いたします**。「PFF アワード 2025」のほか、今後発表予定の「特集企画部門」を含む、**全プログラムが対象**となります(事前申込制)。映画祭のプログラムの発表は、8 月上旬を予定しておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

■ 最終審査員

*五十音順／敬称略。



門脇 麦 (俳優)

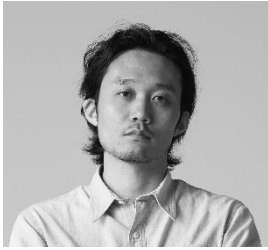
かどわき・むぎ | 2011 年俳優デビュー。2015 年に第 88 回キネマ旬報ベスト・テン新人女優賞受賞。主な映画主演作品に『二重生活』(16)、『世界は今日から君のもの』(17)、『止められるか、俺たちを』(18)、『チワワちゃん』(19)、『さよならくちびる』(19)、『あのこは貴族』(21)、『ほつれる』(23) など。TV ドラマや舞台でも活躍。近年では TV 主演作「厨房のありす」があり、10 月からは舞台『狩場の悲劇』が上演される。



関 友彦 (プロデューサー)

せき・ともひこ | 1996 年に文化学院英米文学科を卒業後、渡英。2000 年に帰国後、フリーランスの

制作スタッフとして多くの国内映画や合作映画の現場を経験。2008 年に株式会社コギトワークスを設立。『人数の町』(20)、『逃げ切れた夢』(23)などをプロデュース。2024 年に『箱男』、『あんのこと』、『若武者』などの功績により「新藤兼人賞」プロデューサー賞を受賞。『風のマジム』が 9 月公開予定。



福永壮志 (映画監督)

ふくなが・たけし | 初長編映画『リベリアの白い血』が、ベルリン映画祭パノラマ部門に正式出品。長編二作目の『アイヌモシリ』は、トライベッカ映画祭で審査員特別賞、グアナフアト国際映画祭で最優秀作品賞を受賞。長編三作目の『山女』は、東京国際映画祭のコンペティション部門等で上映される。近年では、ハリウッド製作のドラマシリーズ『SHOGUN 将軍』の第 7 話の監督を務めた。



山内マリコ (作家)

やまうち・まりこ | 大学で映画を学び、2008 年に「女による女のための R-18 文学賞」読者賞を受賞。2012 年、受賞作を含む連作短編集「ここは退屈迎えに来て」で作家デビュー。地方に生きる女性たちのリアルな姿を描く作風で注目を集める。主な著書に「アズミ・ハルコは行方不明」(13)、「あのこは貴族」(16)、「選んだ孤独はよい孤独」(18)、「一心同体だった」(22)、「マリリン・トールド・ミー」(24)などがある。リズムカルな文体で映画化作品も相次ぐ。



山中瑤子 (映画監督)

やまなか・ようこ | 独学で制作した初監督作品『あみこ』(17)が「PFF アワード 2017」に入選し、観客賞、ひかりTV 賞を受賞。翌年、20 歳で第 68 回ベルリン映画祭に史上最年少で招待される。『魚座どうし』(20)など短編製作を経て、初長編作『ナミビアの砂漠』(24)は今年の第 77 回カンヌ国際映画祭監督週間に出品され、国際映画批評家連盟賞を受賞。2025 年 3 月には「第 6 回大島渚賞」受賞。

■「PFF アワード 2025」入選作品 (22 本)

*作品名五十音順。年齢は応募時、職業(学校名)は制作時のものです。

- 『あの頃』(11 分) 監督: 戸田遼太 (18 歳/埼玉県出身/埼玉県立松山高等学校 映像制作部)
『アンダー・マイ・スキン』(20 分) 監督: 細川巧晴 (21 歳/富山県出身/京都芸術大学 芸術学部 映画学科)
『カクレミノ』(35 分) 監督: 澤田 晴 (22 歳/福井県出身/長岡造形大学 視覚デザイン学科)
『空回りする直美』(44 分) 監督: 中里ふく (20 歳/東京都出身/東放学園映画専門学校 映画制作科)
『黄色いシミ』(32 分) 監督: 野村一瑛 (29 歳/東京都出身/フリーター)
『傷ついた天使』(96 分) 監督: 田辺洸成 (21 歳/福岡県出身/青山学院大学 総合文化政策学部)
『Caravan』(59 分) 監督: 庄司 皓 (23 歳/宮城県出身/同志社大学)
『屈折の行方』(66 分) 監督: 鴨林諄宜 (25 歳/大阪府出身/フリーター)
『紅の空』(39 分) 監督: 瀬川 翔 (17 歳/東京都出身/三田国際科学学園高校)
『CROSS-TALK』(26 分) 監督: 原田 捷 (24 歳/神奈川県出身/会社員)
『郷』(93 分) 監督: 伊地知拓郎 (27 歳/鹿児島県出身/映画監督)
『人生はいつだって HARD だ』(34 分) 監督: 笠原崇志 (30 歳/宮城県出身/俳優)
『名前をつけるのは、これから』(39 分) 監督: 直林水稀 (29 歳/福岡県出身/会社員)
『ノイズの住人』(48 分) 監督: アンドレス・マドルエニョ (30 歳/メキシコ出身/武蔵野美術大学大学院 映像・写真コース)
『PEAK END』(120 分) 監督: シン・チェリン (26 歳/韓国出身/京都芸術大学 芸術学部 映画学科)
『BRAND NEW LOVE』(84 分) 監督: 岩倉龍一 (22 歳/神奈川県出身/東京造形大学 造形学部 映画・映像専攻)
『僕はガタロウ』(18 分) 監督: 久保地穂乃 (24 歳/東京都出身/フリーター)
『マイ スモール ワールド』(11 分) 監督: 丸岡優月 (21 歳/愛知県出身/名古屋学芸大学 映像メディア学科)
『宮沢さんは剥がさせないっ!』(12 分) 監督: 金澤誠人 (16 歳/東京都出身/東京都立工芸高等学校 マシンクラフト科)
『ロ-16 号棟』(11 分) 監督: 井上優衣 (21 歳/東京都出身/武蔵野美術大学 造形構想学部 映像学科)
『惑星イノウエ』(54 分) 監督: 鈴木大智 (22 歳/東京都出身/東京造形大学 造形学部 映画・映像専攻)

『ワンダリング・メモリア』(18分) 監督：金内健樹(35歳/東京都出身/フリーター)

＜入選作品データ＞【入選数】22本 【年齢】平均：23.8歳/最年少：16歳/最年長：35歳
【作品時間】平均：43.5分/最短：11分/最長：120分

＜応募全体データ＞【応募数】795本 【年齢】平均：30.3歳/最年少：13歳/最年長：72歳
【作品時間】平均：29.7分/最短：1分/最長：150分

「PFF アワード 2025」入選作品発表にあたって（ディレクター 荒木啓子）

大変お待たせ致しました！4か月間、795本の応募作品から映画への情熱を浴び続け、映画を生み出す奇跡のような瞬間を感じる日々を過ごしました。

ご応募いただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

17名のセレクションメンバーと延べ3日間語り合い、17の違う視点からの言葉を溢れるほど抱きながら、最終的に、本年は、以下、22作品の入選を決定致しました。

この22作品22監督は、16歳から35歳まで、バックグラウンドも制作体制も多様です。共通するのは「映画」をつくる意志。彼らの生み出す映画を体験し、その先も見守っていただけることを願い、9月の東京、11月の京都、と2つの都市で開催する「第47回びあフィルムフェスティバル 2025」での上映を行います。

そして、ここで最もお伝えしたいのは、ボーダーにあった作品です。「選ぶ」という苦行を最も感じるのが、こうした作品を思うときです。

言葉にならないことばを伝える『藪に惹かれ』、スタイリッシュさが群を抜く『HYANG-SU』、主演男優賞の声も高い『勤労者は今日も睡眠を求める』、意表をつかれる『サンタクロースたちの休暇』、その言葉が、声が、胸迫る『魔物の水音』、現代の課題を誠実に提示する『わたしたちのいるところ』、エンターテインメントを見事に追及した『ロックンロール』、素晴らしい歌に魅入る『翳りゆく部屋』、切実な心、寄り添う姿勢に打たれる『36.3』、大変な力作『私の横たわる内臓』、更にその世界が深まる『霞始めてたなびく』、ふたりの記憶を確認する新しいラブレター『その眼が見ていた光』……いずれも心揺さぶられます。

映画を生み出すということに果敢に挑戦なさった皆様に、改めて感謝と敬意を捧げます。

そして、自主的に生み出される映画たちと、ひとりでも多くの新たな観客との出会いを実現すべく、映画祭を開催します。ぜひ是非、いま、最先端の自主映画に遭遇してください。

■10代限定！「第47回 PFF」無料招待キャンペーン（事前申込制）

若年層の方に、多種多様な映画体験をしてもらうことを目的に、10代限定で、映画祭のお好きなプログラムに、ペアで無料ご招待します。10代であれば、映画をつくっている人、これからつくりたいと思っている人、映画をみるのが好きな人、誰でも参加可能です。

（事前申込制/各回先着10組20名予定）

【ご招待対象者】 2006年4月1日以降生まれの方。（1名まで同伴可。どちらかが10代ならOK。保護者の同伴も可）
※当日、年齢を証明できるものをお持ちください。

【ご招待プログラム】 9月6日(土)～20日(土)の映画祭開催期間中に上映する全てのプログラム。

【申込方法】 映画祭サイト（<https://pff.jp/47th/>）より、PFFのLINE公式アカウントに友達登録する。
8月上旬より、申込フォームをご案内予定。

「第47回びあフィルムフェスティバル 2025」

日程：9月6日(土)～20日(土) 会場：国立映画アーカイブ ※月曜休館

【映画祭サイト】 <https://pff.jp/47th/>

◎お問い合わせ： マジックアワー TEL 03-5784-3120 / ✉staff@magichour.co.jp
一般社団法人 PFF TEL 03-5774-5296